

## 特集「エネルギー」の発行に寄せて

高 井 健 志

東日本大震災以降、原発事故による環境汚染や地球温暖化といった環境問題が、重要な社会課題となっている。また、一般需要家に向けた電力小売市場を自由化するなど、新たな局面を迎えている。日本ユニシスはこうした環境変化をふまえて、創業以来取り組んできたエネルギー関連のシステム開発経験を活かした新たなソリューションやサービスを提供している。

2016年4月の電力小売自由化に合わせて、日本ユニシスはエネルギー事業者向けクラウドサービス Enability<sup>®</sup>の機能拡充として、小売電気事業者向けサービスの提供を開始した。また、CO<sub>2</sub>排出抑制、電力の地産地消として、再生可能エネルギーの研究・開発が進められており、日本ユニシスは次に挙げる実証事業に参加し、積極的に取り組んでいる。

- ・ 太陽光発電量予測システム
- ・ 次世代風力発電サービス
- ・ バーチャルパワープラント（仮想発電所）

一方、自動車業界に目を移すと、世界規模での環境問題が深刻な状況となる中で、環境対応車の普及が不可欠となっており、世界各国の自動車に対する環境規制が変化してきている。日本ユニシスは、他社に先駆けて、電気自動車（EV）やプラグインハイブリッド車（PHV）向け充電インフラシステムサービス smart oasis<sup>®</sup>を提供している。日本ユニシスは低炭素化社会の実現に向けて貢献していく。

日本ユニシスグループは、「ビジネスをつなぎ、サービスを動かす。ICTを刺激し、未来をつくり出そう」というビジョンを掲げている。これまでの経験と実績をバックボーンに新たなサービス基盤を構築し、革新的なサービスを実現していきたい。この実現に向けて、日本ユニシスのコーポレートステートメントである「Foresight in sight」、すなわち「先見性」と「洞察力」で、取り組んでいく所存である。

この取り組みには業界をまたがったエコシステムの構築こそが不可欠である。未来を予見して、これまでにないサービスへの気付きを得る。協業する外部の企業との間でビジョンを共有し、サービスコンテキストを構想する。さらに、事業化を支えるビジネスプラットフォーム、およびICTプラットフォームを実装していく、というアプローチを取る。その際には、日本ユニシスが単独でやるのではなく、オープンイノベーションやオープン&クローズという考え方で、広く世の中の研究機関やベンチャー企業を巻き込みながら進めていこうと考えている。

日本ユニシスがエネルギー関連企業のチャレナジー社と連携して展開している「次世代風力発電サービス」の取り組みもその一例である。同サービスはチャレナジー社が開発した世界初の「垂直軸型マグナス式風力発電機」と日本ユニシスのクラウドサービス Enability EMS およびIoT ビジネスプラットフォームを統合したものである。

日本ユニシスグループが念頭に置いているのは「未来をもっと面白いものにする」ということである。この実現に向けて、さまざまな企業や団体との間で積極的にエコシステムを構築していくことが不可欠であり、ぜひ皆様と一緒に、新たな面白い未来を創造していきたいと考えている。

本特集号では、エネルギー業界における日本ユニシスのこの十数年の進化を振り返るとともに、代表的なサービスビジネスについて、サービスを立ち上げた背景とその取り組み内容を紹介する。エネルギー業界だけでなく、業種・業態を超えたオープンイノベーションやビジネスエコシステムの実現に関心を持つ多くの方々の一助になれば幸いである。

(公共システム第一本部 本部長)